



『モテる』農家をめざして

私の家は宇都宮市で梨を栽培する専業農家です。私は、小学生の頃から家の仕事を手伝ってききました。人よりも農業に触れてきたこともあり、将来は農業で周りから一目置かれるくらい儲けてやろうと中学生のときに思いました。私が目指している「モテる」農家とは、若者や次の世代が希望や夢を持って



る経営の実現と、地域に愛される農家になることです。

将来、「モテる」梨の農業経営者になるため、高校は農業高校に入学しました。高校ではもちろん果樹を専攻して、果樹についての知識を深めました。果樹以外ではグローバルGAPや観光農園などに関心を持ち、私の中での農業への考え方や夢が大きく広がりました。そこから農業についてさらに調べようになり、こんなにかっこいい農業を知ってもらうにはどうしたら良いのか考えました。しかし、答えは見つからずより農業を実践的に学べる栃木県農業大学校に入学しました。

栃木県農業大学校では園芸経営学科で果樹を専攻しました。卒業論文の研究では、豊水や幸水について「枝の密度や葉の量の違いが生育や果実品質・病害虫発生に及ぼす影響」というテーマで研究をしています。剪定で枝の数を調整し、枝密度の違いによって黒星病等の病害の発生に差があるかどうかを調査しています。また、果実の肥大の違いを調べるために日々

データを記録しています。

私が目指す、若者や次の世代が夢や希望を持つことができる農業の実現には、まずは収益率の向上を求めなければなりません。今の果樹生産は洗練された技術があり、これを超えていくのはなかなか難しいことは確かです。しかし、卒業研究の結果を活かしてなんとか単位収量を上げること、新たなコストをかけずに収益率を上げることができるようになりたいと思っています。収益率を高め、「モテる」農家を目指すため、より一層、知識を膨らませたいです。

(農業生産学部 果樹専攻 半田朋也)

